



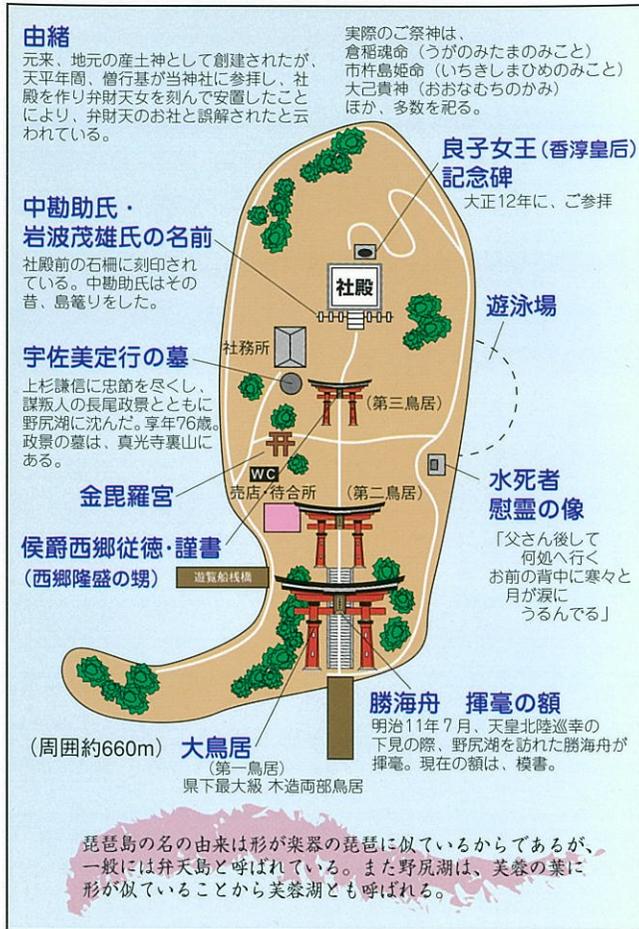
# 宇賀神社

信州野尻湖  
琵琶島



Uga-Jinja

## 上信越国立公園 野尻湖琵琶島略図



宇賀弁財天・十五童子像

日本の産土神の稻荷神倉稻魂命と弁才天(市杵島姫命)が習合したものを倉稻魂命(宇賀神)は、人頭蛇身(人頭：翁)といわれている



宇賀弁才天 二臂坐像  
十五童子の功德をもつ  
万能神とされる



勝海舟 揮毫の額

### 宇賀神社

本宮 〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻琵琶島246  
里宮 〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻304  
電話 090-2621-0587 宮司 宮川

# 琵琶島・宇賀神社の案内

上信越国立公園 野尻湖琵琶島 宇賀神社

## 位置

長野県の最北端、長野県と新潟県の県境に位置し、信越線黒姫駅より北へ四キロメートルの地点にあり、黒姫駅よりバスで約十五分、野尻湖（その形、芙蓉の葉に似たるをもつて芙蓉湖とも称す）の中の小島 琵琶島に鎮座する。その形、楽器の琵琶に似たるをもつて琵琶島と云う。一名、弁天島とも云う。

## 祭神

御神徳 農業 衣食住  
倉稲魂命 市杵島姫命（通称弁財天） 海運 福德 水  
大己貴神（大國主命の別名） 福德 商売 縁結び  
天照大神ほか、軒遇突智命（火産靈神）、健甕名方富命、大山祖神、菅原別命（心神天皇）を合祀する。

## 神事

例祭期間 八月二十六日～二十九日  
例大祭 八月二十六日  
神幸祭 八月二十八日（湖上渡御）  
式年大祭 六年毎に斎行する。（次回は二〇一六年・二〇二二年）  
期間 八月二十一日～二十九日  
宝物の拝観（二十三日・二十四日の二日間）  
宇賀弁財天・十五童子像  
勝海舟揮毫の額

## 沿革

天平二年（七百三十年）第四十五代聖武天皇（五月、当時の沼尻村の産土神として創建されたようであるが、寛永年中旧飯山城主松平遠江守再建口碑の趣によると、天平年中、僧行基当社に参拝し、社殿を造り、御神体を刻み安置し、弁財天女と目せしより弁財天と誤称したとされており、初め弁財天または宇賀弁財天宇賀神と称し、後に宇賀神社と云う。僧行基が刻み安置せし御神体は今も現存している。  
平安、鎌倉、室町を経て、戦国時代に及んで神徳の発揚とともに武家の崇敬すること厚く武運長久を祈る。  
越後の上杉謙信もまた崇敬すること厚く、重臣宇佐美定行もまた野尻城主（琵琶島城）となりて本社を崇敬すること厚く、自ら宇佐美を宇佐神と改め、社殿を補修して、太刀一振り奉納する。後に徳川時代に至り幕府の直轄となる。  
慶長年（一五九六・一六一五）、中森右近太夫忠政飯山城主となるに及んで本社を崇敬して、武運長久を祈る。以来、歴代飯山藩主の崇敬の場所となり、武運長久の祈願所となる。  
寛永五年（一六二八年）第九代明正天皇、松平遠江守忠俱、本社を再建し社領十石を寄進し、社紋立葵を給う。また、野尻湖の水を灌漑に利用している高田藩下住民も崇敬すること厚く、藩主松平光長その恩頼に感謝して寛文五年（一六六五）石灯籠一対を寄進する。なお、現在の社殿は慶応二年（一八六六）に建てられたものとされ、寛永年間の社殿は、現在の本殿の中に残されている。  
明治六年四月  
明治四十二年四月

郷社に列格  
小字にあった社八社を合社し現在にいたる。

## 皇族方の本社への参拝

それぞれ玉串料金一封を賜る。  
大正十一年九月 北白川宮大妃殿下ご参拝  
大正十二年八月二十三日 久邇宮良子女王殿下（香淳皇后）ご参拝（本殿右後方に記念碑あり）  
大正十三年八月二十三日 久邇宮多嘉王殿下、同妃殿下  
東伏見宮邦彦王殿下、同妃殿下ご参拝  
お手植えの松を植えられる  
大正十四年八月 久邇宮妃殿下、東伏見宮邦彦王殿下ご参拝  
大正十五年八月 久邇宮妃殿下、北白川宮大妃殿下ご参拝  
山階宮大妃殿下ご参拝

## 勝海舟 揮毫の額

明治十一年（一八七八）七月に、勝海舟先生が明治天皇陛下北陸巡幸の下見検分のため野尻を通り、本社に参拝した際、当時の高官栗田寛齋氏が勝海舟先生に所望して、額に「宇賀神社」と揮毫していただいた。その額は、長く正面大鳥居に掲げられていたが、傷みが激しくなってきため取り外され、現在は模書の額が掲げられている。  
なお現在の大鳥居は、平成十八年 檜にて新たに建立されたものである。

## 宇賀神社大般若経

この琵琶島の弁財天の御宝前に、芋川庄の庄司であった藤原家から奉納になったという古い大般若経があった。しかし戦国時代、武田信玄に従って大井氏がこの所まで出陣した際、携帯されたこと云われている。今は長野県佐久市の安養寺に伝えられ、県宝に指定されている。

## 奉施入信乃国沼尻琵琶嶋

弁才天御宝前 勧進沙門了妙  
延文四年三月十六日 供養了  
延文四年（一三五九）三月十六日、僧了妙水内郡沼尻琵琶島弁才天に大般若経を施入す

## 宇佐美定行の墓

長尾一族の長尾政景は、新潟県南魚沼郡坂戸城主であった。上杉謙信二十二歳の時、政景は一度謀叛を起こしたが、謙信はすぐにこれを征服した。しかし、政景は勇気もあり、政治的手腕もあったので、処分しなかつたばかりか後に姉と結婚させて、その子景勝を自分の養子とした。謙信がこれほど信頼している政景でしたが、武田信玄と相通じ再び謀叛を企てているとの噂が謙信の耳に入ったことを知った宇佐美定行は、もし政景が謀叛を起こせば春日山の団結も危うくなるし、また謙信が政景を殺せと命ずるようなことがあれば、肉親が殺しあう不徳の大将として諸將の信頼を失うことになり、いずれにしても上杉家にとっては由々しき大事であると考え、ついに一策を案じて、永禄七年（一五六四）七月五日、定行は政景を野尻湖の舟遊びに招じ魚釣りなどをしながら、政景に、「貴殿は信玄と通じ、謀叛を企ておるとの噂が謙信公の耳に入っている」と話し、心無きことを殿に披瀝して身の潔白を証して用意していた濡袷を抜き、定行は背後から政景の腰帯に抱きつき、ともに野尻湖に沈み我が身を犠牲にして上杉家の安泰を図った。時に政景二十九歳、定行七十六歳であった。後にこれを知った謙信公は、定行の忠節に感激して定行の霊を弔うため、その具足を島の一角に埋めた、謙信自ら教塚をたて丁寧に弔ったのが、後世墓所として伝えられてきたものである。  
なお、長尾政景の墓は、当所真光寺にある。

## 琵琶島にかけられた大橋と里宮

この琵琶島にかけられた大橋については知る人は少ない。この大橋は明治時代にかけてられたものである。明治九年（一八七六）春に村の有志により約三年の歳月をかけて、立ヶ崎から琵琶島にかけてられた木造の大橋で、明治十一年七月に完成したものである。  
中三間、長さ二百五十間で、所々に人や車のよけあう待避所が設けられていた。当時この大橋を渡るのに長野県知事の認可が必要で、その定めとして大人一人五銭、小人一人三銭、車馬七銭の橋銭が徴収された。しかしながら、この大橋は明治二十二年の春、補修しないままに朽ちてしまい渡れなくなつたようであり、同年十月現在の旧国道十八号線沿いに里宮が建設された。  
明治四十三年

大正十五年七月  
昭和三年八月十九日  
同 年十一月  
平成二年十一月  
平成九年十二月



## 水死者の慰霊像

野尻湖で水死された人々を慰めるために、その遺族が、琵琶島南側に湖に向かって建立した。  
その石像には、次のように刻まれている。  
父さん後して何処へ行く お前の背中に寒々と 月が涙にうるんでる

国道十八号線沿いの東端に、総樺の鳥居を建立  
里宮改築  
大火により野尻集落の三分の二が焼失し、里宮、鳥居も焼失  
高田錬兵衛の建物を払い下げてもらい、建て替え  
老朽化のため里宮取り壊し  
神宮より拝領した御遷宮時の古材で神殿を造営し、里宮を再建